

南部・西部地区の区立中学校の統合に向けた取組みの状況をお知らせします！

# 学校統合推進課だより(南部・西部地区版)No.8

発行：目黒区教育委員会事務局 学校統合推進課

目黒区教育委員会では、区立中学校の統合方針である「望ましい規模の区立中学校の実現を目指して」を策定しています。これに基づき、南部・西部地区の第七中学校・第八中学校・第九中学校・第十一中学校を2校程度に統合することについて検討しています。



## 区民の方々から様々な声をいただいています。

区立中学校の統合に関しては、様々なご意見やご質問をいただいています。そのうち、本年5月開催の教育施策説明会等でいただいたものからいくつか紹介します。

### Q 南部・西部地区の統合の進捗状況はどうなっているのか。

A 南部・西部地区の区立中学校の統合に関しては、教育委員会事務局と関係学校長で組織された庁内検討組織で検討に取り組んでいます。引き続き検討を進め、具体的な実施策をまとめた上で、統合方針を改定する予定です。

### Q 南部・西部地区の統合の進捗に遅れはないのか。

南部・西部地区の統合においては様々な課題があると認識しています。例えば、施設改修等に当たってのひとつの判断材料とするため、平成26年度に対象の4校の耐力度調査を実行しましたが、文部科学省がその調査方法の改定について検討することが明らかとなったため、調査結果は内部の参考資料とし、改定の動向を注視しています。また、区では、本年度から「区有施設見直し計画」の策定に向けて取り組んでおり、これらも踏まえて検討を進める必要があると考えています。

### Q 区立小学校の統合方針はないのか。

A 小学生は、個人の基礎的な能力を身に付けることがより重要であり、また、地域との連携をも考慮し、喫緊の課題と捉えていません。したがって、現時点では、区立小学校の統合を進めることは考えていません。

※参考：区ホームページ「教育施策説明会」

[http://www.city.meguro.tokyo.jp/kyoiku/seido\\_shikumi/setsumeikai/index.html](http://www.city.meguro.tokyo.jp/kyoiku/seido_shikumi/setsumeikai/index.html)

## 大鳥中学校の統合による成果・課題を検証し、南部・西部地区の区立中学校統合の取組みに活かしてまいります！

大鳥中学校は、平成27年4月1日に第三中学校と第四中学校を統合し、開校したところ。。

初年度は生徒数362人、11学級、本年度は生徒数381人、11学級（各年5月1日現在）と適正規模を満たしています。本年度の学校経営方針は「総力をあげて統合新校2年目を軌道に乗せ魅力を確認するものにする」としています。国際コミュニケーション能力の向上をめざし、英語教育や国際理解教育の推進に取り組んでいます。

さて、本年度は、大鳥中学校の統合の過程を経験した生徒が最終学年である3年生となっています。区最初の統合校である目黒中央中学校については開校5年目の平成22年度に統合評価を行いました。評価委員会において複数の委員から「統合の過程の最中にいた子どもたちの意見を聞いたかった、聞くべきであった」という意見がありました。このような発言を受け、本年度を検証を行うよい機会ととらえ、南部・西部地区の区立中学校統合の取組みに活かしていきます。

裏面があります

【コラム 望ましい学校規模の考え方③】

## 区立中学校については、学級数で11学級以上、生徒数で300人を超える学校規模が望ましいと考えます。

(前2回の要旨)

- 中学生にとっての主要な学習・生活の場である中学校では、生徒の個性・能力に応じた多様な授業展開によって、確かな学力を習得できるように導くとともに、多彩な学校行事や部活動などを通じて、さまざまな人や物や事とかがわる機会を提供することが求められます。
- 11学級の学校には、5教科(国語・社会・数学・理科・英語)で各2人の正規教員を置くことができ、多様な教育内容の提供や、一人の生徒に対する異なった視点からの評価などを可能にするほか、同一教科の担当教員間の教科研究面においても望ましく、教員の校務負担を分散できるという効果をもたらします。
- したがって、11学級以上という学校規模は、活力ある学習活動を展開し、集団の中で豊かな人間関係をはぐくみ、充実した学習・指導体制を整えるために求められる生徒数と教員数を確保できる望ましい学校規模であると考えます。
- また、望ましい学校規模の実現を図るにあたっては、18学級を学校規模の上限として、それを超える大規模校が生まれることは避けるよう留意します。

【学校統合の取組みの紹介～活力ある部活動の実現】

### 学校の適正規模化により部活動の充実を目指します！

中学生にとって部活動は、学校生活の魅力のひとつです。また、生徒の心身の健康をはぐくむとともに、自主性や協調性などの社会性を身に付けるうえで有用な活動でもあります。文部科学省の中学校学習指導要領においても、生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動については、スポーツや文化及び科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等に資するものであり、学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるよう留意することとされています。

ところで、区立中学校の小規模化は、部活動の種類が限定されたり、指導者の確保が困難となるなど、その展開に制約を生むこととなります。

平成18年4月に第二・第五・第六中学校を統合して開校した目黒中央中学校の森田正藏校長に話をうかがいました。「現在、18の部(運動部9、文化部9)が活動し、約9割の生徒が参加しています。各種大会で活躍したり、学校行事に協力したり、地域に貢献するなど、部活動を通じて、生徒は様々な体験を得ています。たくさんの部があることにより、生徒は自分に合った部を選ぶことができ、部活動を目的に目黒中央中学校に入学する生徒もいます。異なる年齢の生徒たちが集まり、共通の目的に向けて取り組むことにより、切磋琢磨し合い、達成感を得ることができるのではないのでしょうか。」

#### ■運動部

サッカー 野球 陸上 ソフトテニス バドミントン  
バスケットボール 卓球 剣道 柔道

#### ■文化部

吹奏楽 美術 パーパークラフト サイエンス  
ボランティア 数検トライ パソコン 英語 文芸



野球部



吹奏楽部

- 南部・西部地区の区立中学校の統合に関してのご意見・ご質問等がございましたら、学校統合推進課までご連絡ください。【問い合わせ先】学校統合推進課 電話：5722-9301(直通)  
Eメール：koyoiku05@city.meguro.tokyo.jp  
ホームページ：http://www.city.meguro.tokyo.jp/koyoiku/gakko\_koyoiku/chugaku\_togo/